

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 24 年度 第 2 号 2012 年 12 月 10 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

栽培水産試験場 調査研究部

TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（産卵来遊群分布調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2012 年 11 月 26～12 月 2 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500m の海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期をやや上回った
- ・ 魚群反応は胆振沖（白老～苫小牧沖）が中心
- ・ 反応の比較的強かった海域は、渡島沖では水深 350～400m、胆振沖では水深 300～350m に形成されていたが、海底に着いた反応は渡島沖で 300m 前後、胆振沖で 200～250m であった
- ・ 漁獲物の体長（尾叉長）は、渡島沖（恵山沖）では 40～45cm の成魚が主体であったが、胆振沖（白老沖）では 20cm 前後および 30cm 前後の未成魚も多かった

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。その中でも、胆振海域の 179、182 海区に濃密な反応がみられました。また、胆振沖の 185 海区や渡島沖の 189、193 海区にも比較的強い反応がありました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、昨年同期をやや上回り、金星丸でこの調査を開始した 2001 年度以降では 2009、2007、2010 年度に次ぎ 4 番目に高い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、渡島沖では水深 250m 以深、胆振沖では 150m 以深に観察されましたが、魚群反応の強かった海域は、渡島沖では水深 350～400m、胆振沖では水深 300～350m に形成されていました（図 4）。ただし、魚群が海底に着いた反応は、渡島沖では水深 300m 前後、胆振沖では水深 200～250m となっており、それ以深では魚群は海底から浮いた反応となっていました（図 2）。
4. トロール調査の結果、渡島沖（恵山沖）の水深 300m 付近の漁獲物は、体長（尾叉長）30～50（主体は 40～45cm）のスケトウダラ成魚が主体となっていました。胆振沖（白老沖）の水深 300m 付近の漁獲物は、スケトウダラが主体でしたが、体長（尾叉長）は 40～45cm の成魚の他に 30cm 前後および 20cm 前後の未成魚もかなりみられました（図 5）。
5. 調査海域の水温は、8 月下旬の調査結果では、昨年よりも水深 150m 以深は高い傾向がみられましたが、この調査ではほぼ昨年並みとなっていました（図 6）。

なお、次回の調査は年明け後の 1 月中旬（2013 年 1 月 15～20 日）を予定しています。調査後にまたスケトウダラニュースを発行して、分布状況等をお知らせします。

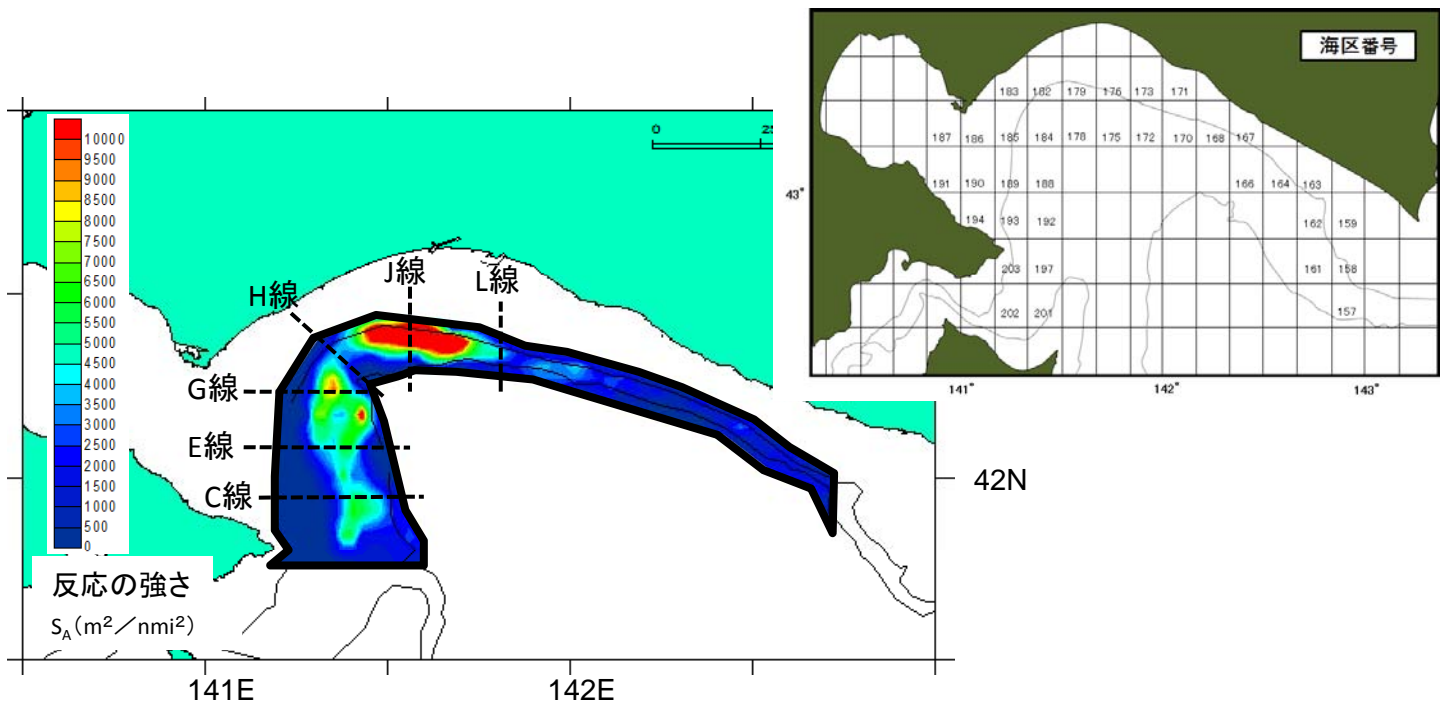


図1 調査海域における魚群の分布

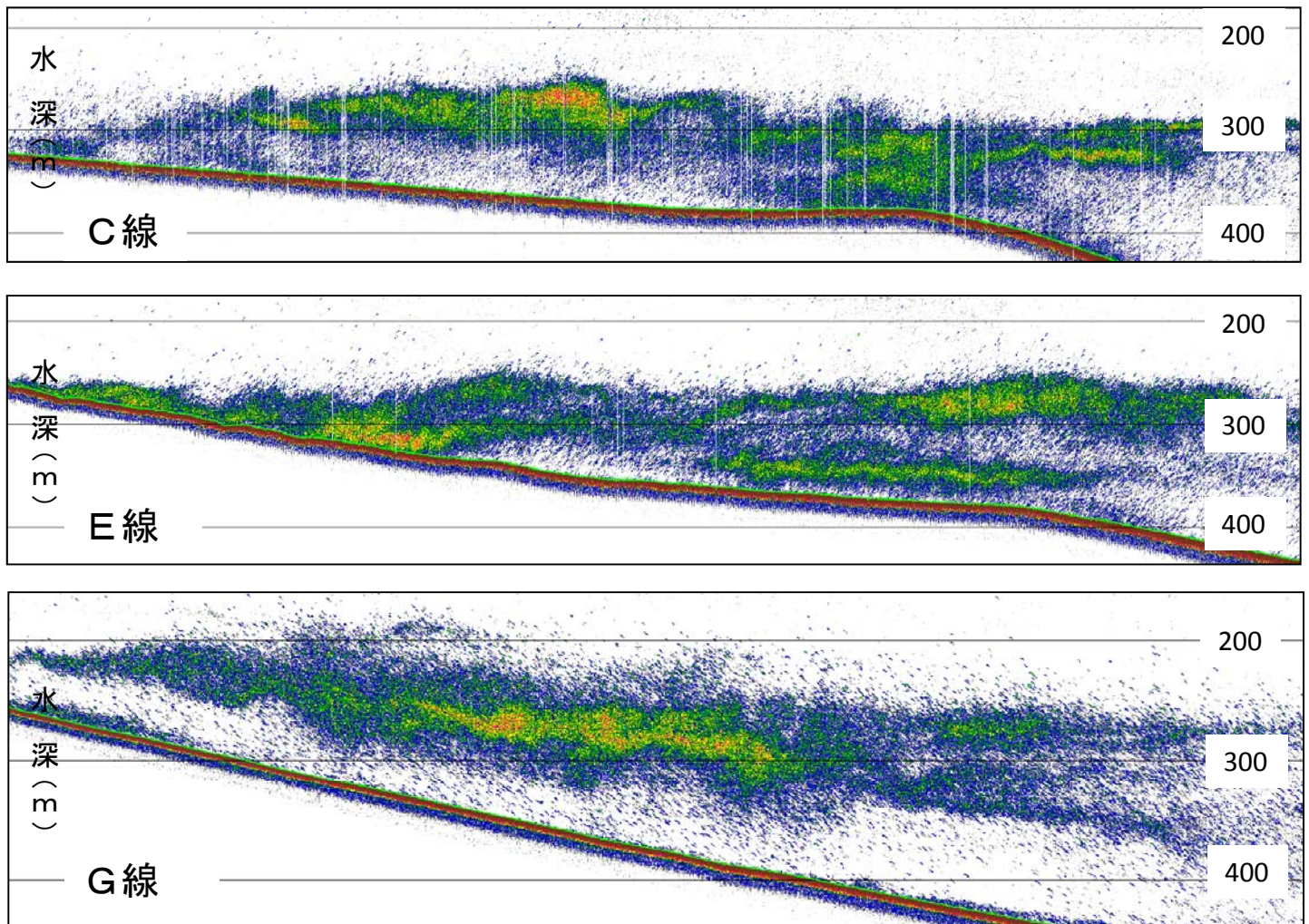


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)

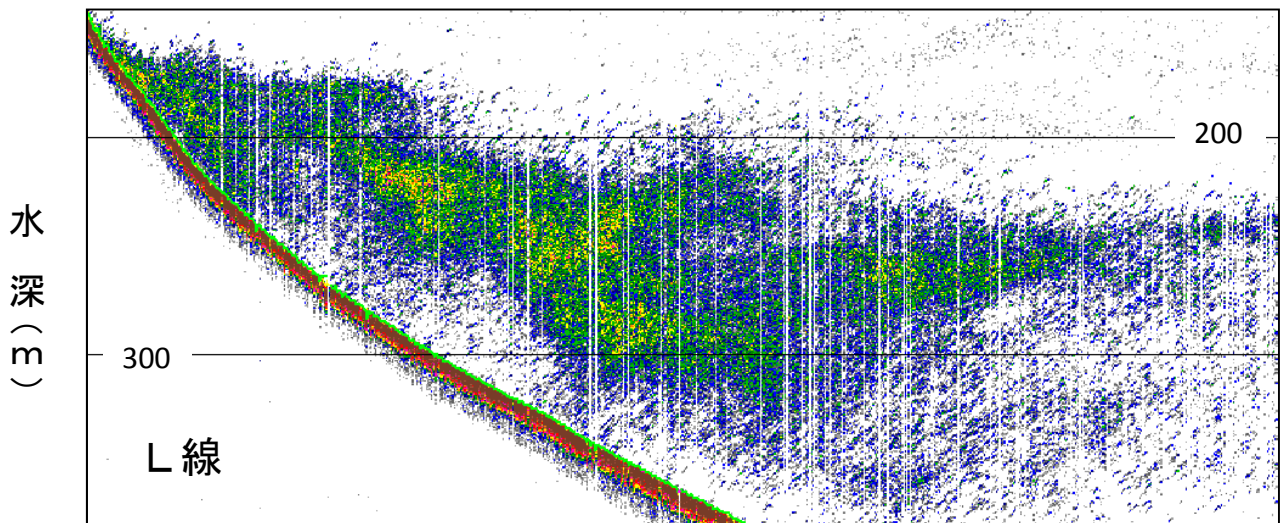
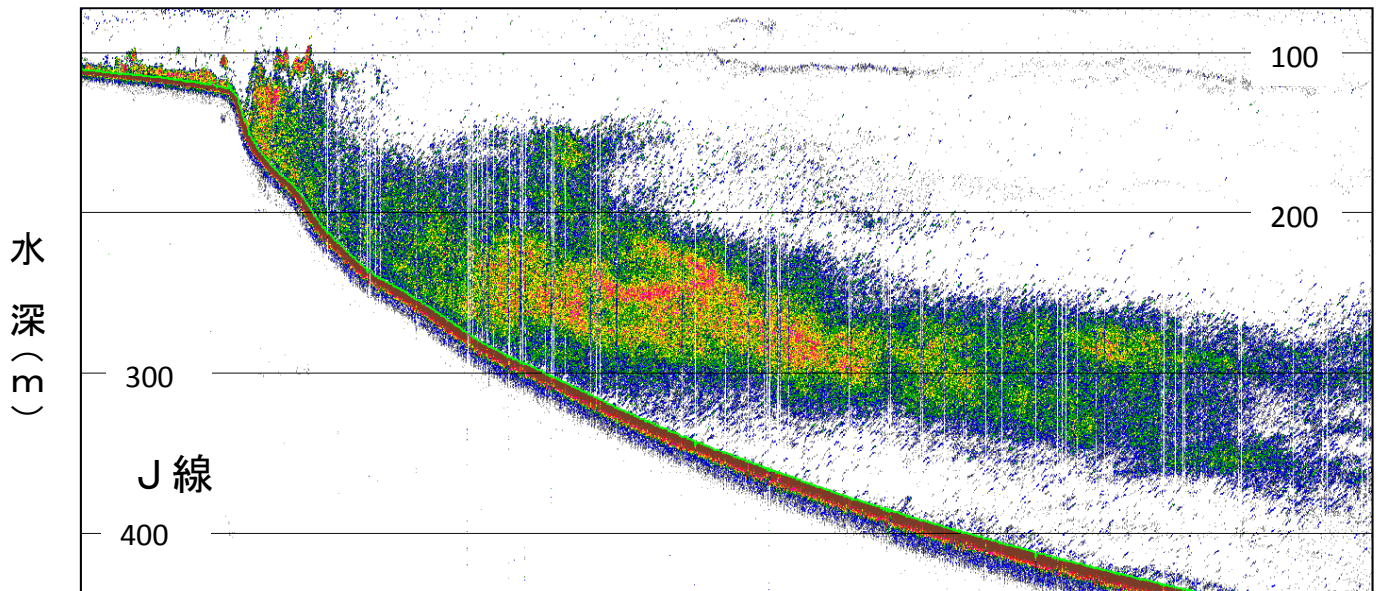
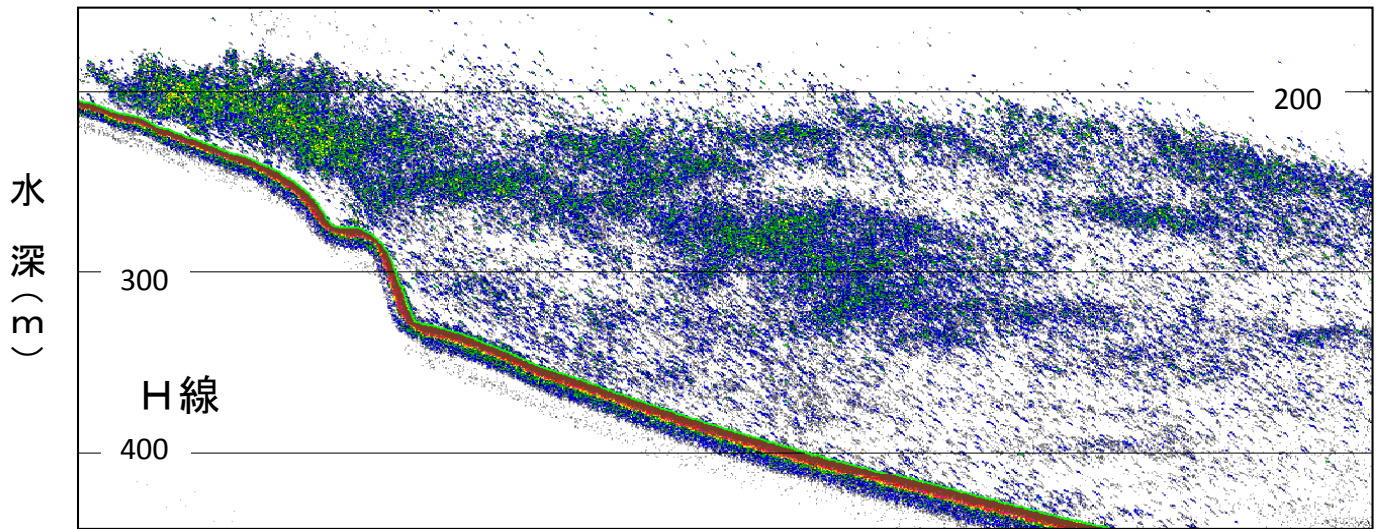


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

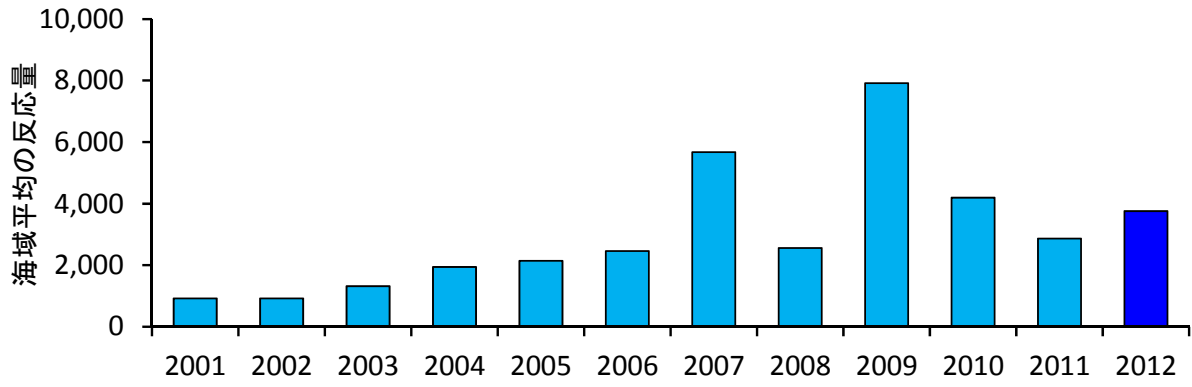


図3 海域平均の魚探反応量(S_A)の推移

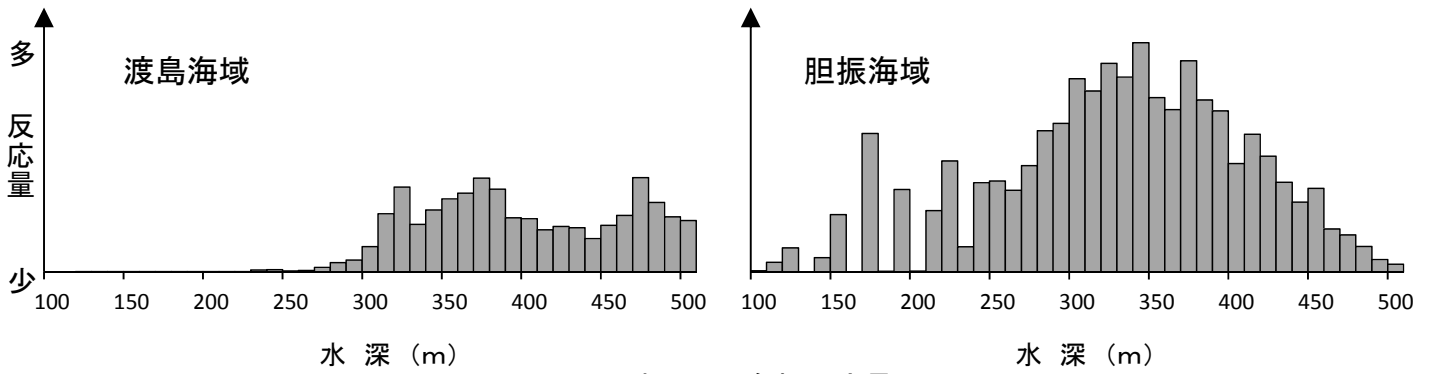


図4 水深別の魚探反応量

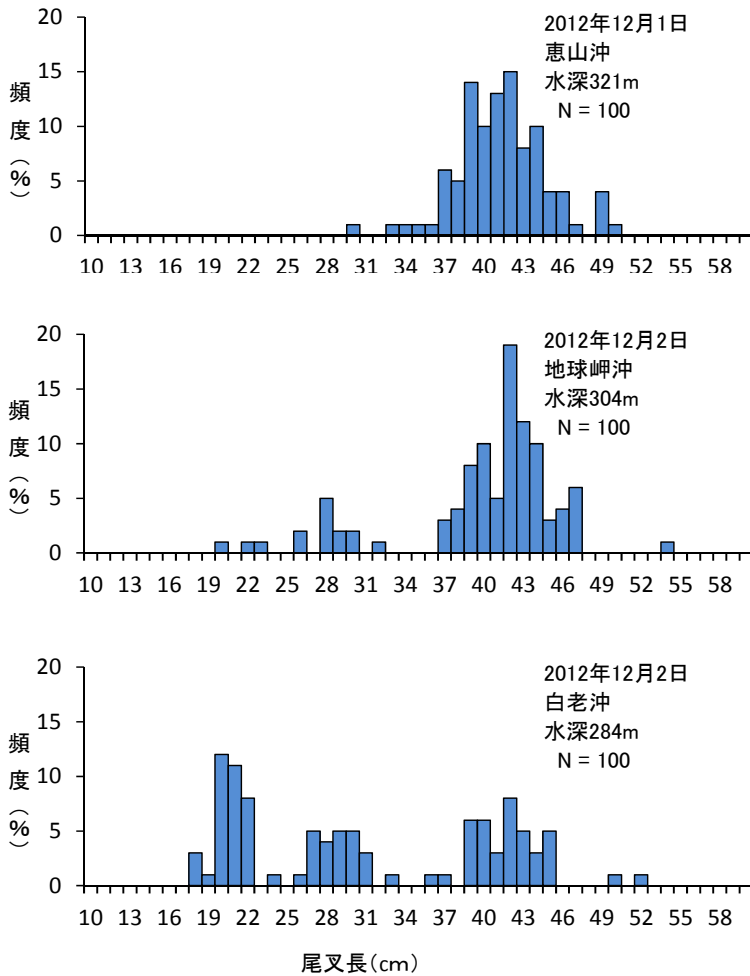


図5 漁獲物の体長組成

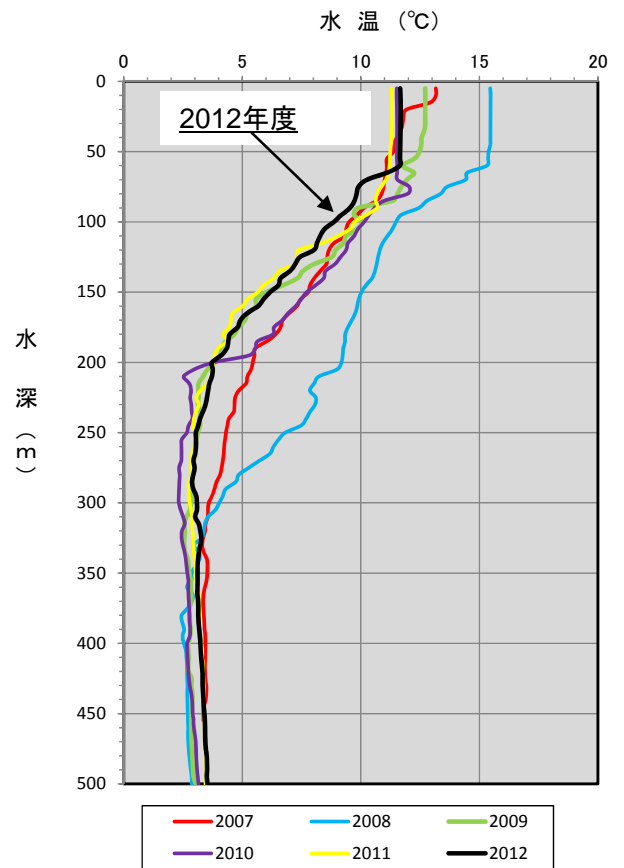


図6 水温の鉛直分布(登別沖)